

神 学 者 の 軌 跡

— 落 合 吉 之 助 博 士 —

鵜 川 馨

はじめに

『日本キリスト教歴史大事典』の人名項目のひとつに挙げられた「聖公会神学院第二代院長落合吉之助師」の執筆を依頼された。落合師については、これまで、大正10年に刊行された『信仰三十年基督者列傳』⁽¹⁾と昭和49年に刊行された『あかしびとたち』⁽²⁾にそれぞれ、伝記が公にされている。聖公会神学院は戦災にあい、その多くの図書、文書類を失い、その他の関係者の記録類も散佚して、手掛りが全くといってよいほどない。⁽³⁾このたび、御遺族⁽⁴⁾の所蔵される図書、関係書類を改めて詳しく検討する機会が与えられ、新しい事実も明らかにされ、また社会的背景について知ることもできたので、『歴史大事典』項目執筆の基礎となった史料をできる限り忠実に再現し、収録することにした。

I 過去霊名帳

落合家の所蔵にかかる最も古い記録は、『過去霊名帳』と題する冊子である。これは、縦22.5 cm 横15 cmの和とじの冊子で、木版刷の過去帳である。版元は、裏表紙の裏面に「紀州和哥山／阪本屋喜一郎／同湊昌平河岸／同 大二郎／」と刷られており弘化年間に上木されたと推定される。表紙の裏は中央に「過去霊名帳」と刷られていて、その右側に、「此書ハ其家々先祖代々の戒名を操り出し／其年数を知る事至て速なり、且主祖の／年忌を弔に甚たより能き書也／」とあり、その左側に「したためよふ」とあって位牌の絵が刷りこまれ、「戒名、年号月日、名乗、俗名、何才」と記入すべき項目が示されている。第一葉の表

に、「近代年號次第速知」という表題の下に「一行に十年をあてて、三百四十年の間を爰に記す、天正／元年♂文化元子年迄二百三十二年ニ相成候。但シ年号／改か又八年の替ごとに上にならひて系の中へ書きくハへて置候／」と使用上の注意がある。そして天正元年から、弘化二年まで元号と年、そしてそれぞれの年の干支が刷りこまれていて、弘化三年以降、明治35年まで毛筆で加筆されている。第三葉から、実際に先祖の戒名が記入されている。順次以下に示す。

第 一 表

戒名・教名	没年月日	氏名	墓地	没年
雪山亮月居士	文化元甲子六月十七日	源征令 初代落合 新蔵	入 口	79才
照山暉月居士	文化九壬申正月十九日	源令尚 二代落合 新蔵	へのきわ	41才
梅香圓月大姉	天保四癸巳七月十七日	忠敏妻 於歌	みなみ	26才
貞光春月大姉	弘化四丁未十二月晦日	令尚妻 春枝	へのきわ	66才
亮岸貞月大姉	嘉永元戊申三月十日	征令部屋 おかよ	入 口	83才
容顔貞月大姉	元治元甲子年三月十七日	忠敏後妻 幸清	みなみ	67才
養山壽月居士	明治二年己巳四月十日	源忠敏 三代落合禮太郎	みなみ	73才
涼山詠月居士	明治三十九年午四月十三日	四代落合馬之進	へのきわ	74才
春山信月大姉	大正五年三月十三日	馬之進妻 信代	へのきわ	69才
教名グレゴリー	大正七年七月二十四日 朝六時	吉之助長男 吉一	雑司ヶ谷	18才
教名ヨハネ	昭和拾七年四月一日 朝四時十四分	馬之進長男 吉之助	雑司ヶ谷	73才
教名サラ	昭和二十五年四月二十九日	吉之助妻 照子	雑司ヶ谷	81才

落合家は、紀州藩の弓の指南番と伝えられているが、『過去霊名帳』によれば初代は、文化元年（1804年）に没しているもので、それほど古い家系ではない。墓所は、和歌山市内橋向町の大立寺にあって、墓石の位置が注記されている。大正7年（1918年）に、落合吉之助師の長男吉一氏の没後、墓所を東京市の雑司ヶ谷墓地内に定めている。

II 聖書

落合吉之助師の所蔵にかかると考えられる聖書が、現在六冊残されている。日本語訳四冊、英語の聖書一冊、イタリア語聖書一冊である。

日本語聖書で、刊行年の最も古いものは、明治37年3月31日発行の大版（縦23 cm×横15 cm）のものである。この「引照舊新約全書」は、横浜市山下町、米国聖書會社の発行にかかり、茶皮装丁で、背表紙に金文字で、「引照／舊新約全書／為／満州軍隊慰勞事業記念／贈／落合吉之助君／日本基督教青年會同盟／」と捺されている。遊び紙の見開きの右側に、「明治卅九年七月下旬／第十八回基督教青年會夏期学校を／仙臺に開ける際／」と自筆の書きこみがあり、左側の頁に、「落合蔵書」という蔵書印が捺されている。

この聖書には随所に書きこみがあり、座右に置かれたもので、かなり痛みも著しい。この聖書に、一枚の紙（縦22cm×横14cm）が挿入されていた。この紙は、落合師が、より早い時期に、所持していた聖書の遊び紙にあたると推定されるが、下記のような毛筆の書込み（縦書き）がある。

〔史料 1〕

カテクメン 明治廿年（6月）於湊汀町救主（仮）教会 教師 ページ //
 洗 禮 明治廿一年三月十二日於和歌山市湊北汀町救主教会 //
 奉堂式日 教師チ．エス．チング氏 //
 堅 信 禮 明治廿三年四月五日土曜日東京市京橋区新榮町七丁目 /
 三一（立教）教会」国会開設及第三内国勸業博覽会開会 /
 之年 監督シー．エム．ウキリヤム氏 //
 此日監督ヨリ黙示録二章十節ヲ以テ熱信ナル勸メヲ受ク 亞孟 //
 落合吉之助 約翰 //

さらに、この聖書の旧約聖書と新約聖書の間に四頁の「家券録」と見出しのついた部分がある。そこには、ペン書きで、次のような書入れがある。

〔史料 2〕

(1487頁) 家券録 結婚

落 合 吉之助 /
 朝比奈 照 子 /
 結婚挙式日 明治卅三年一月十七日夕 /
 右司式会者 監督ジョン．マキム /
 媒 介 人 元田作之進氏及夫人 /

(1488頁) 家券録 誕生

ヨハ子 // 落合吉之助 / 明治三年四月五日 //
 カテクメン 明治廿年六月於和歌山市湊汀町 /
 救主教会 教師ページ //

洗 禮 明治廿一年三月十二日右同上教会奉 /
 堂式ノ日 教師チ. エス. チング //
 ママ 信 禮 明治廿三年四月五日於東京三一大聖堂 /
 監 信 禮 司式者 監督シ. エム. ウキリアム //
 執 事 按 手 一千八百九十八年十月九日合衆国ワシントン聖パウロ / 教会ニ於
 テ, 按手者シカゴ監督マクラレン //
 長 老 按 手 一千八百九十九年於紐育市聖ヨハ子大聖堂 /
 司式按手者, 紐育市監督 H. C. ポッター //

(1489頁) 家券録 誕生

サラ /

洗礼明治廿四年十二月廿五日
 司式者マキム長老於堺市

落 合 テ ル //
 明治三年十一月三日 //

[史料 3]

洗礼明治卅四年四月十九日
 グレゴリー / 吉 一 //
 司式者マキム監督於東京

明治卅四年三月九日 //

洗礼明治卅六年五月十六日於
 仙台 ハンナ / は な //

明治卅六年四月廿日 //

洗礼明治卅九年二月六日於仙
 台 メリー / 光 //

明治卅八年十二月廿五日 //

洗礼明治四十二年廿日於東京
 アウガスチン / 吉 二 //

明治四十二年五月十一日 //

(1490頁) 家券録 永眠

大正七(八)年七月廿四日

グレゴリー 吉 一

享年十八才 //

雑司ヶ谷墓地ニ葬ル //

No. 昭和七年に月状は作製

歴 學	動 員 ノ 地 任		職 教			生 年 月 日	姓 名 (カタコ)	聖 名
	教 會 所 名 及 期 間	教 會 所 名 及 期 間	長 老 按 手	執 事 按 手	傳 道 師 認 可			
其 他 明 治 廿 五 年 米 田 留 學 校 コ ロ ン ビ ア 考 備 B A . B D . D D	明治廿一年 月和カ山中學校	堀 聖 子 子 子	自明治廿一年 月 月 至 自 明治廿一年 月 月	一八九九年 五月 月 日	一八九八年 十月 月 日	明治廿三年 四月 月 日	オナハ子	ヨハ子
	明治廿二年 月和カ山中學校	堀 聖 子 子 子	自明治廿二年 月 月 至 自 明治廿二年 月 月	一八九九年 五月 月 日	一八九八年 十月 月 日	明治廿三年 四月 月 日	オナハ子	ヨハ子
	明治廿三年 月和カ山中學校	堀 聖 子 子 子	自明治廿三年 月 月 至 自 明治廿三年 月 月	一八九九年 五月 月 日	一八九八年 十月 月 日	明治廿三年 四月 月 日	オナハ子	ヨハ子
	明治廿四年 月和カ山中學校	堀 聖 子 子 子	自明治廿四年 月 月 至 自 明治廿四年 月 月	一八九九年 五月 月 日	一八九八年 十月 月 日	明治廿三年 四月 月 日	オナハ子	ヨハ子
考 備	仙台聖公会	司式監督	司式監督	司式監督	司式監督	現住所	原籍	
		司式監督	司式監督	司式監督	司式監督	原籍	東京村北邊豆島郡西葉	鴨町池代字丸山一六二ニ

大学及幼稚学校研究科

第二の聖書は、同じく明治37年3月31日発行の『新約聖書』の小型（縦19cm×横12.5cm）のもので、背と角が皮装丁になっている。遊び紙の見開きの左側に「明治四拾参年九月／吉之助／母上へ／」との書きこみが見られる。

第三の聖書は、昭和5年12月15日発行の『舊新約聖書引照附』で、「東京、米
国聖書協会版」である。「落合蔵書」と扉に捺印されているが、その他の書き込みは認められない。この聖書にも、前頁に示したような一枚のカード（縦14cm×横9.4cm）⁽⁵⁾が挿入されていた。

この聖書にも、4頁の「家眷録」と見出しのついた部分が、末尾に附されている。昭和初年のペン書きの記入がある。

〔史料 4〕

(i 頁) 家眷録 家族

ヨハ子落合吉之助 明治三年四月五日生 //
カテクメン受領 明治廿年六月於和歌山市湊汀町 //
天主教会 教師ページ //

〔一九〇九年六月六日？〕

洗礼式受領 明治廿一年三月十二日全上教会奉堂 //
式ノ日 教師チ. エス. チング //
^{ママ}監信式受領 明治廿三年四月五日於東京聖三一 //
大聖堂, 司式者監督シ. エム. ウキリアムス //
執事接手受領 一千八百九十八年十月九日米国ワ / シントン大聖堂聖パウロ教会, 司式者シカゴ監督マクラレン //
長老接手受領 一千八百九十九年六月於ニューヨーク // 聖ヨハ子大聖堂,
司式会 ^{ママ} ニューヨーク監督H. C. ポッター //

(ii 頁) 家眷録 結婚

落合 吉之助 /
朝比奈 照子 /
結婚挙式日 明治卅三年一月十七日夕 /
右 司式者 監督ジョン. マキム /
媒介者 元田作之進及夫人 /

(iii 頁) 家眷録 誕生

サラ 落合 テル 明治三年十一月三日生 /
洗 礼 明治廿四年十二月廿五日 於堺市テモテ /
教会 司式者マキム長老 /
グレゴリー 落合 吉一 明治卅四年三月九日生 /

洗 礼 明治卅四年四月十九日 於東京聖三一大聖堂 /
司式者マキム監督

〔黒木花子 昭和五二・四・十七〕ハンナ落合はな 明治卅六年四月廿日生

洗 礼 明治卅六年五月十六日於仙台聖公会 /

メリー 落合 光子 明治卅八年十二月廿五日生 /

洗 礼 明治卅九年二月六日於仙台

アウガスチン 落合 吉二 明治四十二年五月十一日生 /

洗 礼 明治四十二年九月廿日於東京 /

(iv頁) 家眷録 永眠

吉二信徒接手 大正十四年五月三日諸聖徒教会 /

司式者元田監督推薦者 /

須貝長老 /

大正七年七月廿四日 グレゴリー吉一 /

雑司ヶ谷墓地ニ葬ル 享年十八才 /

第四の日本語聖書は、昭和十年九月三十日発行四版(昭和二年十二月七日〔初版〕発行)の小型(縦18.8cm×横12.5cm)の黒皮装丁の『我らの主なる救主イエス・キリストの／新約聖書改譯／』である。遊び紙のV頁に、下記のような印刷文がみとめられ、「日本基督教聯盟之印」が捺印されている。

〔史料 5〕

祝聖職奉仕五拾年

頌祖国教化之功勞

昭和十四年十一月二日

日 本 基 督 教 聯 盟

落 合 吉 之 助 殿

次に英語の聖書であるが、黒皮表紙の小型(縦15.7cm×横9.7cm)で、金文字で、**HOLY BIBLE** と捺字がある。これは現在1771頁以下が失われているが、旧新約全書である。タイトル頁は、次のようである。

THE / HOLY BIBLE, / CONTAINING THE / OLD AND NEW TESTAMENTS: / TRANSLATED OUT OF THE ORIGINAL TONGUES: / AND WITH / THE FORMER TRANSLATIONS DILIGENTLY COMPARED / AND REVISED, BY HIS MAJESTY'S SPECIAL / COMMAND. /

(Bible Society's Mark) / LONDON: / SAMUEL BAGSTER & SONS,
LIMITED. / NEW YORK: / JAMES POTT AND COMPANY. / Bre-
vier 24mo. /

この聖書は、司祭接手の時にニュー・ヨーク教区の主教から贈られたもので、
次のような献辞が、ii 頁に書きこまれている。

〔史料 6〕

*The Reverend / John K. Ochiai / in the occasion of his / Ordi-
nation to the Priesthood / at the Crypt of the Cathedral of /
St. John the Divine, New York City / on Trinity Sunday, A. D.
1899. / with all good wishes from / H. C. Potter, / Bishop of
New York / Acting at the request / and in behalf of the / Bi-
shop of Chicago / New York / May 28 1899. /*

イタリア語の新約聖書は、小型（縦12cm×横7.8cm）のもので、タイトル頁
は下記のようなものである。

IL / NUOVO TESTAMENTO / DEL / NOSTRO
SIGNORE E SALVATORE / GESÙ CRISTO, /
TRADOTTO IN LINGUA ITALIANA. / DA /
GIOVANNI DIODATI. / — / NUOVA YORK /
SOCIETA BIBLICA AMERICANA. / ISTITUITA
NEL. MDCCCXVI. / — / 1896. / (Italian.
Nonp., 32mo.) //

そして遊び紙の右側に、イタリア語の書きこみがある。

*Jiovanni K. Ociai. / Nuova York /
Quaresima, 1899 /*

Ⅲ 学位記，司祭接手証

落合家には、現在三通の学位記と司祭接手の証書とがのこされている。

第一の学位記は、シカゴの西部神学校から1898年に与えられた神学全科の修業証書である。(縦34.5cm×横20.5cm.)

〔史料 7〕

IN NOMINE PATRIS ET FILII ET SPIRITU SANCTI /
Senatus Occidentalis Seminarii Theologici, / Chicago, in Provincia Illinois,
omnibus, / ad quos hae literae pervenerint, Salutem / in Domino Sempiternam: / Nos Decanus et Professores Seminarii Occidentalis / Theologici, / *Johannem Kichinosuke Ochiai* / in eodem Seminario curriculum literarum Theologi- / carum et Sacrarum quae per Canones Ecclesiae / Catholicae Americanae Ordinibus Sacris statuuntur, / cum laude perfecisse asseveramus et testamur. / In cujus rei testimonium, literis hisce Seminarii / Sigillo munitis, die Maiæ *xxix*, / anno Salutis Humanae MDCCC *xcviii*, Nos / nomina subscripsimus. /

+ *W. E. McLaren, Praeses.* /

Wm J. Gold, Exrq. et Laurq Instructor, /

Decanus. / *Gar.* /

Francis J. Hall, Inst. Theol. Dogm. /

J. G. H. Barry, Inst. Eccl. Hist. /

Henry R. Neely, Inst. Heb. et Graec. /

Frederic W. Taylor, Eccl. Polit. et Juris Can. Lector /

〔訳文〕

父と子と聖靈の御名によりて

イリノイ州シカゴ(市)西部神学院の理事会は、本状を被見せんとするすべての者に、永遠に主にありて挨拶を送る。我ら西部神学院の校長ならびに教授団は同神学院にありて、ヨハネ落合吉之助、アメリカの公なる教会の法によりて、聖職者に定めし、聖なる神学の課程を、優秀なる成績にて修業せしことを確言し、かつ証明するものなり。その証しとして、本状に、1898年5月29日、神学院の印を押捺し、かつ我らが名を下署せり。

+ 理事長 W. E. McLaren.

校長 William J. Cold.

教理学教授 Francis J. Hall.

教会史教授 J. G. H. Barry.

ヘブル語及びギリシア語教授

Henry R. Neely.

牧会学及び教会法教授

Frederic W. Taylor.

第二の学位記は、ニュー・ヨークのジェネラル神学校の S. T. B. の学位記である。(縦 60.4 cm × 横 45.0 cm 神学院の校印が附されている。)

〔史料 8〕

Decanus Academicumque Corpus / Seminarii Theologici Generalis / quod est / Ecclesiae Protestantes Episcopalis / in Civitatibus Foederatis Americae / Assentientibus Curatoribus Honorandis et Reverendis / Omnibus et Singulis quorum interest / Salutem in Domino : / His literis testamur nos / Revedendum *Johannem Kichinosuki Ochiai, A. B.* Presbyterum / ad gradum in Sacrosancta Theologia Baccalavrei / provexisse eique omnia jura et privilegia quae ad istum / gradum attinent dedisse et concessisse in Nomine / Patris et Filii et Spiritus Sancti. / In cujus rei testimonium sigillo nostro Communi et / Decani hujus Academiae chirographo Diploma hocce / muniendum curavimus. / Datum Novi Eboraci die *decimo septimo* mensis *Maiae* / A. D. *millesimo octingentesimo nonagesimo nono* / *Eugenius Aug. Hoffman, S. T. D., D. C. L. / Decanus.* /

〔訳文〕

アメリカ合衆国、聖公会、ジェネラル神学院法人ならびに校長は、賛同者、庇護者、尊崇者、聖職、すべての人、そのいずれにも、主にありて挨拶を送らん。

我らは、父と子と聖霊の御名によりて、司祭、学士ヨハネ落合吉之助師を最も聖なる神学士の学位に進め、かつその学位に附随せるすべての権利と特権とを与え、授けしことを本状もて証するものなり、その証しとして、本証書、本学院の公印、校長の自署とをもて、確たるものとなすなり。ニュー・ヨークにて、1899年5月19日
校長、神学博士、法学博士 Eugenius Aug. Hoffman.

第三の学位記は、1924年西部神学院の贈った名誉神学博士の学位記である。(縦 42.5 cm × 横 34.8 cm 神学校の公印の押捺がある。)

〔史料 9〕

Praeses et Curatores / Occidentalis Seminarii Theologici / in urbe Chicago in Provincia Illinois / in civitatibus foederatis Americae siti, assentiente Academico Corpore / honorando et reverrendo, Omnibus ad quos hac literae pervenerint / Salutem in Domino. / His literis testamur nos /

*Reverendum John Kichinosuke Ochiai, B.D., / ad gradum in / Divinitate
Doctoris / honoris Magni Causa / provexisse eique omnia jura et privilegia
quae ad istum gradum / attinent dedisse in Nomine Patris et Filii et
Spiritus Sancti. / In cujus rei testimonium sigillo Seminarii et Praesidis
hujus Academiae chirographo / Diploma hocce muniendum curavimus. /
Datum die mensis Junii Quinta Anno / Salutis Humanae MCMXXIV. /*

+ C. P. Andersen / Bishop of Chicago /

Praeses. /

Gerald G. Moore /

Scriba. /

〔訳文〕

アメリカ合衆国イリノイ州，シカゴ市，西部神学校の理事長ならびに教授団は，本状を披見せんとする本学院の賛同者，尊崇者，聖職者，すべての人に主にありて，挨拶を送る。

我らは，父と子と聖霊の御名によりて，神学士ヨハネ落合吉之助師を名誉神学博士の学位に進め，同学位に附随するすべての権利と特権とを与えしことを本状をもて証するものなり。

この証しとして，神学校の印，本学院理事長の自署，本証書とをもて確たるものとなすなり。

1924年6月5日

+ シカゴ教区主教 C. P. Andersen 理事長

Gerald G. Moore 書記

下記は，司祭按手の証書である。（縦43.3 cm×横35.6 cm）

〔史料 10〕

Diocese of New York. / In the Name of God, Amen. / To all the faithful in Christ Jesus throughout the World, Greeting: / Be it Known unto you by these Presents, that I, Henry Godman Potter, D.D., LL.D., / By Divine permission Bishop of the Diocese of New York, conferring Holy Orders under the protection of Almighty God, / in *the Crypt of the Cathedral of St. John the Divine, New York City*, and State of New York, / of the *Twentyeighth* day of *May* in the year of our Lord One Thousand Eight Hundred and *Ninety Nine*, being / *the Trinity Sunday*, did then and there (*at the request and in behalf of the Right Rev. the Bishop of Chicago*,) rightly and canonically and according to the / Form prescribed by the Protestant Episcopal Church

in the United States of America, ordain as a priest our beloved in/ Christ, the Reverend *John K. Ochiai* of whose pious, sober and honest Life and / Conversation, competent Learning, Knowledge of the Holy Scriptures and Soundness in the Faith, I am well assured; he having, in / my presence, freely and voluntarily declared, that he believes the Holy Scriptures of the Old and New Testament to be the Word of / God, and to contain all things necessary to Salvation, and, solemnly engaged to conform to the Doctrines and Worship of / the Protestant Episcopal Church in these United States. / In testimony Whereof, I have hereunto affixed my Seal and Signature, in New York City, on the / day and in the year above written, and in the *Sixteenth* Year of my Consecration. /

Henry Godman Potter, /
Bishop of New York. /

〔訳文〕

ニュー・ヨーク教区

神の御名によりて、アーメン。

全世界にあるキリスト・イエスを信ずるすべての人に挨拶を送る。

本証書にて下記のことを知らしむるものなり。即ち、神の助けによりてニュー・ヨーク教区主教たる余、神学博士、法学博士たる Henry Godman Potter は、救主降生 1899 年 5 月 28 日、聖三位一体主日、ニュー・ヨーク州、ニュー・ヨーク市、聖者聖ヨハネ大聖堂地下礼拝堂にて、神の助けにより聖職位を授けんとて、〔シカゴ主教の求めにより、かつその代理として〕本日ここに、アメリカ合衆国聖公会の定めし式文によりて、キリストにありて敬愛するヨハネ落合吉之助師を、正当にかつ教会法に従ひて、司祭に叙任せり。余は師の敬虔、謹厳にして誠実なる言葉と行ひ、聖書の豊かな学識ならびに知識、健全なる信仰につきて確信せり。かつ余の面前にて、旧約・新約聖書は、神の言葉にして、救ひに必要なものすべてを含むものなりと信ずると、強制されることなく自ら宣言せし師は、合衆国聖公会の教義ならびに礼拝に従ふことを厳かに約したり。

この証しとして、余の聖別第十六年、前記の年、前記の日に、ニュー・ヨーク市において、余の印を押捺し、かつ自署したり。

ニュー・ヨーク教区主教 ヘンリー、ゴッドマン、ポッター

IV 履 歴 書

立教大学総務部人事課に、落合師の履歴書が二通保管されている。一通は毛筆による自書のもの、もう一通はタイプ印字のものである。両者とも日附を欠くが前者は、明治末年、おそらく専門学校令による立教大学開設（明治40年、1907年）にあたって作成されたもの、後者は大正末年、おそらく立教大学が大学令による大学昇格（大正11年、1922年）にあたって作成されたものと推定される。

〔史料 11〕

履 歴 書

本籍及
現住所 東京市京橋区明石町四拾番地 /
戸主 土族 落合吉之助 /
明治三年四月五日生 /

- 自明治廿一年九月至全廿三年六月東京三一神學校修業 /
 - 自明治廿六年九月至全廿八年六月北米合衆国シカゴ市西部神學 /
校古文科卒業
 - 自明治廿八年九月至全卅一年六月シカゴ市西部神學校神學全 /
科卒業
 - 自明治廿八年七月至全卅一年九月シカゴ大學第二学期中語学 /
特ニ独乙語希^{フル}伯来語研修
 - 自明治卅一年十月至全卅二年六月米国約育市ゼ子ラル神學院補 /
習科（ポストグラデュエート）卒業 /
 - 全上年間約育市コロンビア大学，哲学，倫理，人類学研修 /
 - 明治卅二年六月約育市ゼ子ラル神学院ヨリ S. T. B. 学位ヲ授ケ /
ラル（規定論文提出）
 - 自明治卅三年九月至全卅五年四月東京三一神学校旧約聖書文学教授 /
 - 自卅八年四月至全四十年七月仙台市東北中學校英語講師 /
 - 明治四十年九月東京三一神學校旧約文学，希伯来語教授 /
 - 全 東京私立，立教大学講師
- 右之通りに候也

落 合 吉 之 助 ㊤

〔史料 12〕

履 歴 書

原 籍 東京府北豊島郡西巢鴨町大字池袋千六百拾貳番地 土族 /
現住所 同 /

落合吉之助/
明治三年四月五日生/

學 業

- 明治廿一年九月ヨリ同廿三年六月迄東京三一神學校ニ於テ修業/
- 同廿六年九月北米合衆シカゴ市西部神學校ニ入学同廿八年六月同校/
古典科卒業/
- 同廿八年九月シカゴ神學校ニ入學同卅一年六月神學科卒業
- 同廿八年七月ヨリ同卅一年九月迄シカゴ大學ニ於テ英文學, 獨逸語, /
及希伯來語修業/
- 明治卅一年十月米國紐育市ゼネラル神學院補習科ニ入學同卅二年六月/
卒業
- 同卅一年十月ヨリ同卅二年六月迄コロンビア大學ニ於テ哲學, 倫理,
人類學ヲ修業ス
- 同卅二年六月ゼネラル神學院ヨリ S. T. B. ノ學位ヲ授ケラル

職 業

- 明治卅三年九月東京三一神學校教授ニ任ゼラル
- 同四十年九月東京三一神學校教授
- 同四十年九月ヨリ同四十一年迄立教大學講師
- 同四十四年五月聖公會神學院教授大正九年六月院長ニ就任
- 大正九年十月ヨリ引継キ私立立教學院立教大學講師

賞 罰

- 賞罰ナシ

V 足 跡

以上に転写した史料をもとにして、明らかになったことを最後に總括する。

落合吉之助師は、明治3年4月5日(1870年5月5日)〔史料11.12〕に、和歌山藩士落合馬之進、信代の長男〔第一表〕として出生した。和歌山中学在学中明治20年(1887年)6月、和歌山市湊汀町の救主教会の仮堂において、ページ師(The Rev. H. D. Page. ? — ?)から、求道者として公会問答を学び、翌年3月12日(復活前月曜日)、湊北汀町の救主教会の献堂式の当日、チング師(The Rev. T. S. Tyng, 1849—1927)から洗礼を授けられた〔史料1.2.4.〕。和歌山中学卒業後、明治21年(1888年)9月、東京三一神学校に入学し、明治23年(1890年)6月修業した。神学校卒業を前にして、明治23年4月5日土曜

日（復活前日）に、東京市京橋区新榮町七丁目聖三一大聖堂（立教教会）において、ウィリアムズ主教（The Rev. C. M. W. Williams, 1829～1910）より信徒接手を受けている〔史料 1. 2. 4.〕。

同年、ウィリアムズ主教から伝道師の認可を受け、大阪府河内国堺市市ノ町にある聖テモテ教会に派遣されたようである。⁽⁶⁾ ジョン・マキム師（The Rev. John MacKim, 1852—1936）の下で働いた。堺に在住中、許嫁、朝比奈照子は、明治24年（1891年）12月25日に、聖テモテ教会において、マキム司祭より洗礼を授けられている〔史料 2. 4.〕。洗礼名はサラである。

アメリカ留学に出発したのは、おそらく明治25年の末〔史料 3〕であったようで、明治26年（1893年）9月に、シカゴ市の西部神学校（the Western Theological Seminary）に入学し、二年後、明治28年（1895年）6月、同校古典科を修業、さらに同年9月神学科に進み、明治31年（1898年）6月に修業し、5月29日付の修業証書〔史料 7〕が与えられている。この三年間、シカゴ大学において、ドイツ語、ヘブル語を研修しているが、おそらく聴講生であったと思われる。

明治31年（1898年）10月より、ニュー・ヨーク市のジェネラル神学校の補修科（大学院）に進み、明治32年（1899年）5月19日、提出した論文に対して、神学士（S. T. B.）の学位が与えられている〔史料 8〕。

ジェネラル神学院在学中、明治31年10月9日金曜日（聖ドニの祝日）に、ワシントン市、聖パウロ教会において、シカゴ教区主教マクラレン（The Rt Rev. Bishop W. E. McLaren, 1875—1905（主教在位））の司式によって執事接手を受け〔史料 2. 4.〕、さらに明治32年5月28日（聖三位一体主日）、ニュー・ヨーク市、聖者聖ヨハネ大聖堂の地下礼拝堂において、司祭接手を受けている〔史料 2. 4. 10〕。それはシカゴ教区主教の推挙にもとづくものであり、ニュー・ヨーク教区主教ポッター（The Rt Rev. Bishop, H. G. Potter, 1887—1899（主教在位））がシカゴ教区主教の代りに司式している〔史料 6. 10〕。落合家には、現在でも、ニュー・ヨーク聖者聖ヨハネ大聖堂の銅版刷の画が保存されているが、これは完成予想図であって、当時は、地下礼拝堂の部分しか竣工していなかったといわれている。⁽⁷⁾

ジェネラル神学校在学中、コロンビア大学において、哲学、倫理学、人類学

を聴講したという〔史料11.12〕。

明治32年、帰朝し、東京市京橋区築地明石町53番地に居を定め⁽⁸⁾、翌33年（1900年）1月17日火曜日の夕、マキム主教の司式、元田作之進夫妻を媒介人として、聖婚式を挙げた。婚約から10年を経過している。照子夫人は故国で夫君の学業の成るを待ったのである〔史料2.4.〕。

明治33年（1900年）9月から東京聖三一神学校の旧約学の教授に任せられるとともに〔史料11〕、聖三一大聖堂において、マキム監督の下で長老として働くことになる⁽⁹⁾。

明治34年（1901年）には、明石町55番地に移転し、明石町53番地にあった女子神学校の副校長に、元田作之進師の後任として就任している⁽¹⁰⁾。この年3月9日長男の吉一誕生し、4月19日、マキム主教より、幼児洗礼を受けている。洗礼名は、グレゴリーである。

明治35年（1902年）麴町飯田町2丁目の諸聖徒教会に移り、長老アーサー・ロイド師（The Rev. Arthur Lloyd, 1852—1911）とともに司牧している⁽¹¹⁾。

明治36年の『聖公会略暦』が立教大学図書館に所蔵されていないので、不確かであるが、明治35年の後半に、仙台に赴任したものと推定される。明治36年（1903年）4月20日長女はなが誕生し、5月16日仙台で洗礼を受けている。洗礼名はハンナである〔史料2.4.〕。

明治37年の『聖公会略暦』によれば、住所は「宮城縣仙臺市定禅寺通櫓町細横丁角」とあり、定禅寺通櫓町8番地の仙臺基督教会と弓ノ町21番地の講義所の長老であり、さらに元常盤町15番地の女子神学校にかかわりがある⁽¹²⁾。エフ・メードレー師（The Rev. William F. Madley, 1866—1937）の後任として仙台基督教会を司牧したのと同時に、マキム主教の命で、ミス、マクレイ（Miss E. McRae, ? — ?）とミス、ブリストウ（Miss Flora Bristowe, ? — 1942）とともに、婦人伝道師養成の学校を開くためであったと想定される⁽¹³⁾。女子神学校は、明治38年に生徒数5名となり、仙台基督教会と同じ敷地に移り⁽¹⁴⁾、明治41年には、さらに仙台市元柳町52番地に移転し⁽¹⁵⁾、明治42年には、仙台市外記町28番地⁽¹⁶⁾、そして明治43年に至って「伝道女学館（北東京地方婦人伝道者養成学校）」として、仙台市東一番町11番地に設立された⁽¹⁷⁾。青葉女学院との名称が記載されるようになったのは大正3年以降のことである⁽¹⁸⁾。

明治38年（1905年）に、仙台の住所は、仙台市北一番町 114 番地に移っている。⁽¹⁹⁾ 明治38年12月25日に次女、光が誕生し、翌年2月6日、仙台聖公会で、洗礼を受けている。洗礼名は、メリーである〔史料2.4.〕。

仙台在任中、日本Y M C Aとの関係が特に深かったようである。帰朝後間もなく明治33年（1900年）7月18日から27日まで、元田作之進師を校長として、箱根湖畔で開かれた第12回 Y M C A 夏期学校に、すでに講師として招かれ、⁽²⁰⁾ 「預言者イザヤの生涯教育性格」と題して講話をしている。

明治37年（1904年）日本Y M C Aの企画した「軍隊慰問事業」の慰問使として、YMCA名誉主事ヒバード氏(Carlisle V. Hibbard, 1902—1917 (在日期間)) とともにその第一陣として、前線にむかっている。⁽²¹⁾ 落合家の蔵書中にウォルター・スコット卿の詩集がある。⁽²²⁾ その遊び紙の右側に「*Bought in the day before /starting to the/Front/at Tokyo/Aug. 28, 1904/*」(前線に赴く前日東京にて購ふ、1904年8月28日)との英文の書き込みがなされている。従って、8月29日東京を出発して、満州にむかったと考えられる。もうひとつ、落合家には、白木の箱（縦60.0 cm×横80.0 cm×高さ50.0 cm）が所蔵されていて、その蓋の裏に「記念として贈呈す / 明治三十七年十月安東縣を / 後にして遼陽に向ふ 数日前 / 桑原秋成 / 落合大人 / 玉机下 / 」と毛筆で書き入れられている。

明治38年（1905年）6月1日、仙台の市Y M C Aが創設された。おそらくこの創設にも落合師はかかわっていたようである。⁽²³⁾ 翌39年（1906年）7月26日から8月2日まで、第18回の夏期学校が、東北学院で開かれた。この夏期学校の校長は、元田作之進師であり、落合吉之助師は、牧師をつとめている。参加者は550名の多数を数えている。⁽²⁴⁾ そしてこの夏期学校が仙台で開かれることが機縁となって、同年7月27日、日本Y M C Aの第2回総会が東北学院で開かれている。この総会の席上、「軍隊慰問事業に関する特別報告」がなされ、前記の、金文字を捺した特別聖書が贈呈されたのであろう。⁽²⁵⁾ それは、落合師自身の聖書への書き込みと符節を合する。

明治38年4月から明治40年（1907年）7月まで、仙台市東北中学校で英語の教師をしたと記されている〔史料11〕ところからも、立教大学の講師、東京三一神学校の旧約学、ヘブル語の教授として、明治40年9月から就任している〔史料11〕ことから、この年の夏、急に東京に転任となったのであろう。おそらくこ

のことは、立教大学の専門学校令による大学認可と関係があったのではなかろうか。⁽²⁶⁾立教大学では1年しか教鞭を取らなかったようで〔史料12〕、担当科目は聖書であった。⁽²⁷⁾

落合家には、仙台基督教会の会衆から退任記念として贈られたうもれ木の彫刻（会堂図）が所蔵されていて、その裏面に、「表餞別之寸志／明治四十年十月／仙臺基督教會會員一同／長老落合吉之助殿／」と墨書されている。おそらく転任が急であり、秋に入ってから贈られたものであろうか。

明治41年（1908年）落合師の住所は、京橋区築地明石町25番地、⁽²⁸⁾翌42年（1909年）には、明石町40番地に移り、⁽²⁹⁾大正2年（1913年）まで同所である。

明治42年5月11日に、二男吉二が誕生し、9月20日洗礼を受けている。洗礼名は、アウガスチンである〔史料2.4.〕。

東京に帰り、東京三一神学校の教授に就任すると同時に、聖マツテヤ伝道学校の教授を兼ねた。⁽³⁰⁾

明治44年（1911年）に東京三一神学校の副校長となり、⁽³¹⁾『要覧』の記載上は大正7年（1918年）まで三一神学校は存在する。⁽³²⁾

明治の末まで、各地の教会の司牧に携さわっていることが『要覧』上、伺われる。明治41年42年には、C.F. スキート師（The Rev. Charles F. Sweet, 1855—1927）の不在中（休暇中）、浦和諸聖徒教会の長老（管理司祭）である。⁽³³⁾明治43年には、J. チャペル師（The Rev. J. Chapel, 1869—1954）の不在中、水戸ステパノ教会の長老、太田講義所の長老（管理司祭）であった。⁽³⁴⁾明治44年には、C.H. エヴァンス師（The Rev. Charles H. Evans, 1863—1955）の不在中、前橋マツテヤ教会、高崎聖公会の長老（管理司祭）であった。⁽³⁵⁾

明治44年（1911年）4月27日、聖教社神学校から文部省に提出された学則変更、名称変更の手続の結果、聖公會神学院が認可されたので、⁽³⁶⁾同年5月、聖公會神学院の教授に就任した〔史料12〕。聖公會神学院は、大正元年（1912年）9月に、池袋に新校舎の完成をみるまで、芝区芝榮町8番地の仮校舎にあった。⁽³⁷⁾なお前述のように、東京三一神学校は、大正7年まで築地に存続するので、副校長、教授を兼務したのであった。

落合師の住所も、大正3年版の『日本聖公会要覧』に、「東京府北豊島郡巢鴨村大学池袋千六十二番地」と記載されているが、大正2年版では、「明石町四十

番地」の住所欄に、「不在」と注記されている。従って神学院校舎、教授校宅の完成とともに、大正元年に池袋に転居したものと推定される。以降神学院校長を辞任する昭和14年（1939年）まで、池袋の校宅を住所としたのである。

大正7年（1918年）7月24日最愛の長男吉一の逝去が記録されている〔史料2.4.〕。

大正8年（1919年）9月3日、今井寿道校長の没後、大正9年（1920年）6月に、第二代校長に就任した〔史料12〕。そして大正9年4月に、文部省が立教大学文学部に宗教学科の設置を認可した。これにともなって、立教大学と聖公会神学院との間に提携の関係が成立した。即ち「立教大学予科修了者を神学院に入学させ、同時に立教大学の宗教科にも学籍を持って、三カ年の同一共通科目を学習後両校の卒業資格を得る事となったのである」⁽³⁸⁾。そこで神学院校長の資格で、立教大学文学部、宗教学科長に就任し、同時に非常勤講師として、ヘブル語を担当している⁽³⁹⁾〔史料12〕。

大正11年（1922年）、立教大学は、大学令にもとづく大学に昇格したのである⁽⁴⁰⁾が、その学期にみられる課目担当では、「猶太教経典学」となっている⁽⁴¹⁾。このような立教大学との関係は、昭和13年度まで、変ることなく維持されている⁽⁴²⁾。そして、院長辞任後も、専任講師として「希伯来語」を担当している⁽⁴³⁾。

大正13年（1924年）に、母校の西部神学校（当時はシーベリ・ウェスタン神学校 Seabury Western Theological Seminary と呼ばれた）から名誉神学博士の学位をおくられている〔史料9〕。

大正14年（1925年）5月3日次男吉二氏が諸聖徒教会において、須貝長老の推薦により元田監督より信徒接手を受けた〔史料4〕。

昭和2年（1927年）4月12日に、パレスチナを訪れたことが、記念として求められた『聖地の花のアルバム』の扉の書きこみから伺われる⁽⁴⁴⁾。

昭和14年7月に神学院の校長を辞任する⁽⁴⁵⁾。辞任にあたって、神学校在校生から一枚の油絵が贈呈された。広田画伯の筆になる神学院の礼拝堂の絵で、その額縁の裏のわくに在校生の毛筆でなされた自署がみられる。

「贈落合先生／御退職記念」と両脇に記され、上段に「中道淑夫、林稔、木村毅三、矢崎健一、山岸樹郎、廣安孝夫、邊宗浩、矢幅武司」中段に「小林春二郎、角瀬史和、山田襄、岩井祐彦、奥森襄、長沢正、法用茂樹、木島徳治、桑

田孝，山口千里」下段には「斉藤千秋，中村正網，水藤繁次，秋山禋範，児玉正，平野武，小川清信，矢澤信夫，藤田剛一，佐々木厚，長澤四郎，久泉清」とある。神学院校長辞任後世田谷区若林町六一五番地に居を移された。

なお，聖公会神学院の教授就任以陰，管理司祭として関係した教会は，浦和の諸聖徒教会と牛込の聖バルナバ教会とであった。

浦和の諸聖徒教会には，大正4年（1915年）から，大正10年（1921年）までで，大宮聖公会も同様であった。大正4年から8年までは，伝道師の青木伊八氏と，院長就任後は，伝導師，西村敬太郎氏とミス・ライト（Miss A. H. Wright）と共に働かれたようである。⁽⁴⁶⁾

大正12年（1923年）東京教区の設置にともなって，従来南東京地方部に属し S. P. G の宣教師 R. D. M. ショウ師（The Rev. Ronald Dunn Mackintosh Shaw, 1883—1972）の司牧していた牛込の聖バルナバ教会を，亡くなられるまで19年にわたって管理することになった。⁽⁴⁷⁾大正12年から14年までは，上田一良，ミス・バラード（Miss Ballard）小川英子姉とともに，大正15年（1926年）以降は，岡牆清蔵氏，ミス・バラード，小川英子姉とともに（小川姉は昭和6年まで）ミス・バラードは昭和10年まで，昭和13年（1938年）以降は黒田みゆき姉が加わって，牧会にあたったようである。

昭和17年（1942年）4月1日早朝4時14分逝去，享年73才であった。雑司ヶ谷墓地に埋葬された。⁽⁴⁸⁾

- (1) 『信仰三十年基督者列傳』東京，警醒社書店，大正10年11月18日，189頁。
- (2) 日本聖公会歴史編纂委員会編『あかしびとたち——日本聖公会人物史——』東京，日本聖公会出版事業部，昭和49年，231頁—233頁。
- (3) 松平惟太郎「聖公会神学院史」『神学の聲』第3巻第1号，1956，5～27頁。
- (4) 以下に引用する史料は落合家の当主の，落合吉二氏の所蔵にかかるものである。落合家は戦時中，戦後五回転居されておられるが，幸いなことに罹災されなかったために，かなりの図書，資料類を保存しておられる。閲読の機会を与えられたことを感謝するものである。
- (5) このカードは，晩年記憶にもとづいて作成されたようで，特に「任地の異動」の欄に，思いちがいが認められる。
- (6) 『耶蘇降生一千八百九十一年 / 明治二十四年 / 聖公會略曆』（明治廿三年十

- 二月十三日印刷 / 大阪市東区北濱二丁目龍雲舎) の「大阪府河内國堺市市ノ町一
番地 / 聖テモテ教會」の項 (40頁) には「會長, ジョン, マキム / 濱田佐太郎」
とあり、『明治25年』(明治廿四年十二月十二日印刷) 『明治26年』(明治廿五年十
二月十五日印刷) の同項には、「會長, ジョン, マキム, 落合吉之助 / 」とある。
- (7) K. Heim司祭の御教示による。
- (8) 『耶穌降生一千九百年 / 明治卅三年 / 聖公會略曆』36頁。
- (9) 『同上』37頁。「東京市京橋区築地明石町卅九番地 / 聖三一大聖堂 / 中略
/ 監督ジョン, マキム / 長老落合吉之助」「同五十三番地 / 聖三一神学校 / 校長監
督ジョン, マキム / 教員, エ, アル, モリス / シ, エフ, スウキート, イ, アル
ウッドマン / シ, エチ, エバンス / 落合吉之助」
- (10) 『第廿世紀初年 (耶穌降生 / 一千九百一年) / 明治三十四年 / 聖公會略曆』
3頁。「聖三一大聖堂 / 中略 / 監督ジョン, マキム / 長老落合吉之助 / 全山縣雄
杜三」中略「聖三一神学校 / 中略 / 校長監督マキム / 教授 / エ, アル, モリス /
シ, エフ, スキート / イ, アル, ウッドマン / シ, エチ, エバンス / 落合吉之助
/ ジ, ワレス / 山縣雄杜三 / エチ, エス, タッカー / 「女子神学校 / 中略 / 校
長監督マキム / 副校長落合吉之助 / 教師山縣雄杜三 / 全ミス, ニリー」39頁。
- (11) 『耶穌降生一千九百二年 / 明治三十五年 / 聖公會略曆』「全 (東京市) 麴
町區飯田町 / 二丁目 (九段中坂) / 諸聖徒教會 / 中略 / 長老アーサー, ロイド /
全落合吉之助 / 執事栗原素行」38頁。
- (12) 『耶穌降生一千九百四年 / 明治三十七年 / 聖公會略曆』「仙臺基督教會 /
中略 / 長老落合吉之助 / 小舟素子」中略「女子神学校 / 生徒三 / ミス, マクレ
ー / ミス, ブリスター / 落合吉之助」「弓ノ町二十一番地 / 講義所 / 中略 / 長老落合
吉之助 / 小舟素子」36頁。
- (13) 司祭松平惟太郎, 日本聖公会歴史編纂委員会編『日本聖公会百年史』東京,
日本聖公会教務院文書局, 昭和34年, 284頁。
- (14) 『耶穌降生一千九百五年 / 明治三十八年 / 聖公會略曆』36頁。
- (15) 『耶穌降生一千九百八年 / 明治四十一年 / 聖公會略曆』60頁。「全全元柳町
五十二番地 / 女子神学校 / 生徒七 / 長老エー, ダブルユー, クック / ミス, ブリ
スター / 」
- (16) 『耶穌降生一千九百九年 / 明治四十二年 / 聖公會略曆』61頁。「全市外記
町廿八番地 / 女子神学校 / 生徒八 / 長老, エ, ダブリュー, クック / 校長ミス,
ランソン / 講師稲垣陽一郎 / ミス, マキム」
- (17) 『耶穌降世一千九百十年 / 明治四 / 十三年 / 日本聖公会要覽 / 日本聖公会
教務局』122頁。「仙臺市東一番町十一番地 / 傳道女学館 / 北東京地方部 / 婦人
傳道者養成学校 / 生徒八 / 学館長アンナ, エル, ランソン (不在) 代理イ, ジ, ニ
ューボルド / 教授エ, ダブリュー, クック / 全稲垣陽一郎 / 全ベッシー, マキム / 」
- (18) 『耶穌降世一千九百十四年 / 大正 / 三年 / 日本聖公會要覽 / 日本聖公会教

務局』136頁。「仙臺市東一番町十一番地 / 青葉女学院 / 婦人伝道師養成部 / 五 / 幼稚園保母養成部 / 八 / 總理監督ジョン, マキム / 学院長女執事アンナ, エル, ランソン / 教授 (チャプレン) 長老メードレー / 全稲垣陽一郎 / 主任ミス, エ, ファイヨック (不在) / ミス, コレル / 講師数名 / 全 / 青葉幼稚園 / 宮城縣認可 / 児童四十 / 園長ミス, エ, ファイヨック (不在) / ミス, コレル / 保母田口たい / 傳道師八代つね / 」

- (19) 『耶蘇降生一千九百五年 / 明治三十八年 / 聖公会略曆』31頁。
- (20) 奈良常五郎『日本YMCA史』東京, 日本YMCA同盟, 昭34年, 404頁。
- (21) 『日本YMCA史』121—124頁。
- (22) THE/POETICAL WORKS/OF/ SIR WALTER SCOTT./Including Introduction and Notes./ (Publisher's Mark)/ LONDON:/ FREDERICK WARNE & CO. / AND NEW YORK. /
- (23) 『日本YMCA史』165頁。
- (24) 『日本YMCA史』405頁。
- (25) 『日本YMCA史』128—130頁, 前出91頁を参照されたい。
- (26) 立教学院百年史編纂委員会編『立教学院百年史』東京, 立教学院, 1974年, 271—292頁。
- (27) 立教学院八十五年史編纂委員会編『立教学院八十五年史』東京, 立教学院事務局, 昭和35年, 81—85頁。
- (28) 『耶蘇降生一千九百八年 / 明治四十一年 / 聖公會略曆 / 』54頁。
- (29) 『耶蘇降生一千九百九年 / 明治四十二年 / 聖公會略曆 / 』54頁。
- (30) 『明治四十一年 / 聖公会略曆 / 』「全 (東京市京橋区) 築地明石町五十三番 / 地 / 私立専門学校 / 東京 / 三一神学校 / 生徒十三 / 校長監督マキム / 教授 / エ, アル, モリス / ジ, ワレス / イ, アル, ウッドマン / シ, エフ, スウキート / 落合吉之助 / 兼寮長山縣雄杜三 // 全新佃島東町二丁目一 / 番地 / 聖マツテヤ伝道 / 学校 / 生徒八 / 校長監督マキム / 教授 / 近重利澄 / エチ, エス, タッカー / 落合吉之助 / ゼ, エ, ウェルボン / 山縣雄杜三 //」ちなみにこの年度から立教大学の記載が始まる。「全築地明石町 / 五十八, 九, 六十番地 / 立教学院 / 立教大学 / 総理エチ, エス, タッカー // 立教学院中学校 / 生徒 / 五百五十 / 校長元田作之進 / 職員三十餘名 // 立教学院寄宿舎 / 生徒六十 / 舎長元田作之進 / 主監久保田富次郎 / 舎監阿部太一郎 //」聖マツテヤ神学校については, 明治45年 (1912年) の『日本聖公会要覧』をもってその記載がみられなくなる。
- (31) 『耶穌降世一千九百十一年 / 明治四 / 十四年 / 日本聖公会要覧 / 日本聖公会教務局 / 』123頁。「東京市京橋区明石町五十 / 三番地 / 東京三一神学校 / 文部省認可私立専門学校 / 学生 / 五 / 候補生 / 二一 / 校長監督マキム / 副校長落合吉之助 / 教授ジ, ワレス / 全シ, エフ, スキート / 兼寮長 / 山縣雄杜三 // 聖マツテヤ傳道学校 / 生徒五 / 校長監督マキム / 教授四名 //」

- (32) 『日本聖公会要覧』大正7年版(118頁)は、「校長監督ジョン・マキム」としか記していない。前年の大正6年版(141頁)では、「別科生四/寄宿候補/生一六/校長監督マキム/副校長落合吉之助/教授ジ, ワーレス/全シ, エフ, スキート/全山縣雄杜三//」と記している。
- (33) 『聖公会略暦』明治41年版, 59頁, 明治42年版59頁。「全縣(埼玉縣)浦和町二百四十二/番地/浦和諸聖徒教会/十六/中略/長老落合吉之助/竹島廉平//」
- (34) 『日本聖公会要覧』明治43年版, 80頁。「茨城縣水戸市上市仲町五/百三十五番地/聖ステパノ教会/三五/中略/長老落合吉之助/◎田中隆/ミス, ライト/◎小舟とし//」, 「全久慈郡大田町西ノ上/太田講義所/六/中略/長老落合吉之助/村上榮次郎//」
- (35) 『日本聖公会要覧』明治44年版, 79頁。「群馬縣前橋市北曲輪町三/十二番地/前橋マツテヤ教会/八五/中略/長老落合吉之助/◎北澤繁松/ミス, マクレール/◎石原つる//」, 「全高崎市堰代町二十/五番地/高崎聖公会/三五/中略/長老落合吉之助/執事大野要蔵/◎小笠原はる//」
- (36) 松平惟太郎「聖公会神学院史」7頁。
- (37) 『日本聖公会要覧』の明治45年版(128頁)には「東京市芝区榮町八番地/(仮校舎)/聖公会神学院/文部大臣認可私立専門学/校/日本聖公会教学財団/学生一一/候補生二九/理事諸監督/校長今井壽道/教授落合吉之助/同山縣雄杜三/同岩井順一/舎監佐々木鎮次//」とある。大正2年版(131頁)では、「東京府北豊島郡巢鴨村/大字池袋字丸山一六一二/聖公会神学院/中略/本科一六/選科一/下略」とある。
- (38) 松平惟太郎「聖公会神学院史」12頁。
- (39) CATALOGUE/OF/ST. PAUL'S COLLEGE/(RIKKYO DAIGAKU)/FOR/1921-1922/* * */TOKYO//P. 10. In April 1920 Government permission was obtained for the establishment of a Department of Religion at St. Paul's College as a Department of the College of Arts. This through affiliation, in part, with the Central Theological College of the Nippon Seikokwai, has resulted in a course being offered to students in Theology by which they may complete courses in Arts and Theology in five years instead of eight and be graduated from both institutions at the same time. p. 13. INSTRUCTORS: ... p. 14. Kichinosuke Ochiai, S. T. B. Hebrew.
- (40) 『立教学院百年史』270-313頁, 『立教学院八十五年史』96-103頁102頁。
- (41) 「猶太教經典学〔旧約学〕希伯来語, バチュラ・オブ・セクレド・セオロジ, 落合吉之助」『立教学院八十五年史』102頁。

- (42) 『立教大学一覽(昭和十三年四月)』38—39頁。
- (43) 『立教大学一覽昭和十四年度』44頁。『立教大学一覽昭和十五年度』46頁。
- (44) ‘*Bought at Bethlehem / 12 April 1927 / J. K. Ochiai /*」 「ベツレヘムにて買ひ求む、1927年4月12日、落合吉之助」 “Album / Souvenir / Flowers from the Holy Land / Fleurs vues de la Terra Sainte / Editeur N de Simini Jerusalem/.”
- (45) 松平惟太郎「聖公会神学院史」15頁。
- (46) 『耶穌降世一千九百十五年 / 大正 / 四年 / 日本聖公会要覽 / 日本聖公会教務院総務局 / 』80頁。「全(埼玉縣)北足立郡浦和町二 / 百四十二番地 / ○諸聖徒教会 / 二三 / 中略 / 長老落合吉之助 / ◎青木伊八 // 全北足立郡大宮町宮町九十六番地 / ○大宮聖公会 / 十五 / 中略 / 全 //」, 『大正 / 九年 / 日本聖公会要覽』73頁。「全浦和町仲町二四二 / ○浦和諸聖徒教会 / 四五 / 長老落合吉之助 / 西村敬太郎 / ミス, ライト / 全大宮町仲町 / ○大宮聖公会 / 一八 / 全 / 全 //」
- (47) 『耶穌降世一千九百廿三年 / 大正 / 十二年 / 日本聖公会要覽 / 日本聖公会教務院総務局 //』77頁。「南東京地方部 / 中略 / 全(東京市)牛込区築地町二〇 / (赤城坂下) / ◎聖バルナバ教会 / 一二〇 / 長老アル・デ・エム・ショウ / 上田一良 / ミス・バラード / 小川英子 //」 『千九百二十四年 / 大正 / 十三年 / 東京教區要覽 / 東京教區監督事務所 //』26頁, 「牛込区築地町二〇 / 聖バルナバ教会 / 中略 / 一三六(現在信徒数) / 六七(現在受餐者数) / 長老▲(管理長老) 落合吉之助 / 上田一良 / ミス・バラード / 小川英子 //」
- (48) 黒瀬保郎「落合吉之助——円満な神学院の校長先生——」 『あかしびとたち——日本聖公会人物史——』233頁。

(1980年9月26日)